

大河と海が育んだ 石巻の豊かな歴史を発信する博物館

太平洋に面し、北上川の河口に位置する石巻は、豊かな自然環境の中で人々の生活が営まれてきました。「大河と海」をテーマに掲げる石巻市博物館では、歴史・民俗・考古・美術の各分野の収蔵資料を核に据え、それらの調査・研究を進めています。活動成果は展示を通じて、広く発信していきます。

開館に至る経緯 東日本大震災を経て

かつて石巻市には、昭和61年(1986)に開館した石巻文化センターという博物館施設がありました。平成23年(2011)3月11日に発生した東日本大震災では、沿岸部にあった同施設に津波が直撃し、1階の学芸室や収蔵庫が被災しました。収蔵資料は、被災直後から文化財レスキュー事業により全国の博物館・美術館関係者の支援を受け、救出・保管・修復がなされました。





石巻市博物館は、石巻文化センターの後継施設として、震災を乗り越えた収蔵資料を継承し、令和3年(2021)11月に開館しました。当館は、地域の歴史・文化を発信する拠点として活動を展開していきます。

博物館の利用案内

開館時間	9時～17時（最終入館16時30分）
休館日	毎週月曜日 ※ただし、その日が祝日の場合は翌日休館 年末年始休館（12月28日～1月4日）
観覧料	常設展 一般 300円
	高校生 200円
	小・中学生 100円

※20名以上は2割引の団体料金

注意事項

-  展示品には手を触れないでください。
-  展示室内にて携帯電話での通話、鉛筆以外の筆記用具の使用はご遠慮ください。
-  展示室内ではフラッシュ撮影はできません。また、三脚や自撮り棒の使用もできません。
 - ・展示品の接写はご遠慮ください。
 - ・撮影禁止マークの展示物は撮影できません。
-  展示室内での飲食（あめ、ガム、ペットボトルのお茶等も含む）はご遠慮ください。

資料閲覧室には、石巻市の歴史や、展示に関する図書を配架しております。ぜひご利用ください。

アクセス情報

JR石巻駅から
タクシーで約11分

三陸自動車道
石巻女川ICから
車で約5分

駐車場無料(347台)



お問合せ先

石巻市博物館

〒986-0032 宮城県石巻市開成 1-8
TEL 0225-98-4831
FAX 0225-98-4832



石巻市
博物館
ISHINOMAKI
CITY MUSEUM

歴史文化展示室



共通テーマ「大河と海」の下、石巻市の通史を取り上げた展示室です。先史・古代・中世・近世・近現代の5つのコーナーで構成され、それぞれの時代の石巻を象徴する資料を展示しています。

先史 海のめぐみと縄文時代の石巻人

沼津貝塚、南境貝塚、泉沢貝塚出土遮光器土偶など

古代 新たな文化の流入と国家勢力の拡大

五松山洞窟遺跡、桃生城など

中世 武士の進出と石巻

葛西氏、山内首藤氏、長江氏、板碑、中世城館など

近世 石巻湊の発展

仙台藩、鑄銭場、千石船関係資料など

近現代 石巻湊から港へ、「マチの暮らし」と「ハマの暮らし」

石巻関連地図、牡鹿半島の漁具資料、江島サッパ船など

石巻の源風景 過去・現在・未来をつなぐ

石巻市では、「大河と海」によって育まれた、特徴のある風景をみるることができます。それぞれの風景の成り立ちに



は、歴史的事象や地域の文化が深く関わっています。

展示室では、各時代を象徴する風景を「源風景」としてめき出し、石巻の歴史を理解する一助としています。

常設展示室 案内図



1階	常設展示室	: 832㎡
	企画展示室	: 377㎡
2階	収蔵庫1~3	: 358㎡

毛利コレクション展示室

毛利コレクションとは、住吉町在住の故毛利総七郎が70数年かけて蒐集した、10万点を超える資料群の総称です。主な内容として、総七郎自身が私財を投じて発掘調査を行った沼津貝塚・南境貝塚出土遺物、灯火具・喫煙具などの生活用具、古銭などの石巻鑄銭場関係資料、鏢・鞘などの刀剣関係資料、アイヌ資料、古文書、浮世絵、絵図、そしてマッチラベルや駅弁の包み紙などの生活関連資料があります。



学術的に高い評価を得たものから、庶民文化の一端を伝える資料まで、多岐にわたるコレクションは必見です。

石巻にゆかりの先人たち

阿波重造やフランク安田を始め、石巻にゆかりのある先人たちを取り上げ、その功績を紹介しています。

主な先人として、蛇田村出身の弁護士である布施辰治を取り上げ、遺族から寄贈された5千点余の関係資料の一部を展示しています。



高橋英吉作品展示室

石巻出身の木彫作家・高橋英吉(1911~1942)の作品を集めた展示室です。英吉は「海」を主題とする独自の作品を生み出し、高い評価を得ましたが、太平洋戦争において31歳の若さでこの世を去りました。

戦後、生前の英吉をよく知る人びとによって、全国に散らばっていた英吉作品が集められ、石巻市に寄贈されました。

